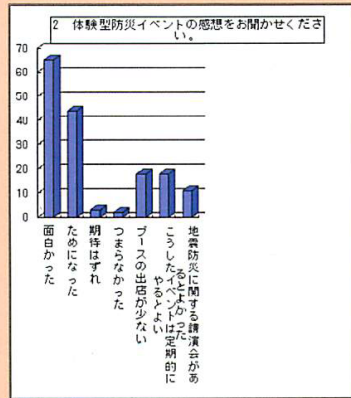
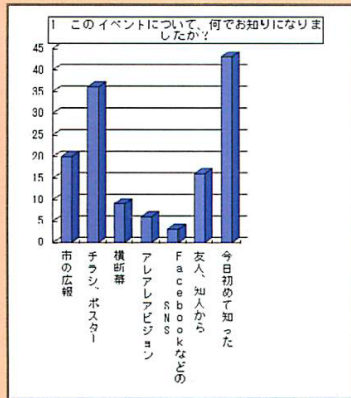


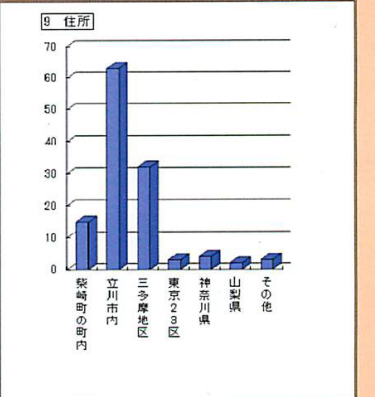
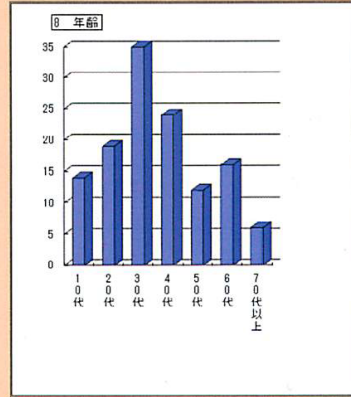
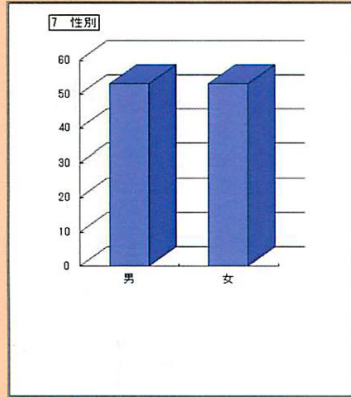
★参加者アンケート調査結果 (n=128)



アンケート結果からは、事前の広報周知活動の不足が指摘された結果となっている。

なお、参加者の印象は、上位を「面白かった」、「ためになった」という好評価が占めていた。

参加者の多くが町内でなく立川市や三多摩地区が多かったのは、広域集客している立川南口の特徴と言える。



*この地域で行うアンケートは、30代の特に女性からのものが取りにくいことが以前から知られていたが、今回のアンケート調査結果は、従来と異なり比較的若い世代からの回答が得られている。

市民のための体験型防災フェア2012 実行委員会から



東日本大震災の「次ぎ」が来ってしまう前に、一人でも多くの人に防災について考えるきっかけを提供していきたい。そう願って今回のフェアを開催いたしました。また、普段、なかなか自治会などの防災訓練に参加できない人でも、気軽に体験できる防災フェアとして、あえて駅前の商店街として企画させていただきました。

今回のフェアに際しまして、ご協力頂きました各防災・行政機関の皆様をはじめ、ご出展ご協賛いただきました各社様に、厚く御礼申し上げます。

実行委員会委員長 井上英徳(防災士)

市民のための体験型防災フェア2012 実行委員会

総括責任者: 中里 晋(南口商店街振興組合 理事長)
 実行委員長: 井上 英徳
 実行委員: 野村 勝久、山田 敏夫、栗原 一雄、並木 宏充、大貫 高輝、井上 泰徳、田中 智、
 スペシャルサックス: 小澤 清富(西通り西会商店会 会長)、鈴木 実(スタジオM2)



立川市制72周年記念
 体験型 市民のための防災フェア 2012
 主催：立川南口商店街振興組合



消防署長と談笑する中里会長

御挨拶

昨年の東日本大震災の発災直後、立川駅南口周辺では、帰宅困難者を含め多くの方が情報等を求め集まっていたが、突然襲った想定外の事態に、当立川南口商店街振興組合を含め、適切な対応が出来たとは言いかねます。

そうした事態を繰り返さないためには、体験を通して「地震災害」に関しての知識等を得る機会をつくる必要があると考え、各自治会で行われている避難訓練等に参加されていない方も含め、立川南口に来街している多くの人たちを対象に、「楽しみながら防災を考える」防災フェアを企画・実施致しました。

ご協力頂きました各防災・行政機関の皆様をはじめ、ご出展ご協賛いただきました各社様に、厚く御礼申し上げます。

当商店街は、今回のイベント開催を機会に、今までにまして、地域連携や協働体制の構築を図りたいと考えています。

立川南口商店街振興組合 理事長 中里 晋

①メイン会場:
 (多摩モノレール立川南駅のデッキ下の歩道)
 「見る・知る」をテーマに、防災・減災に関する様々な事柄の展示・販売が中心で開催されました。

②第二会場:(立川市一時駐輪場)
 「見る・知る・体験する」をテーマに、陸上自衛隊、日本赤十字社東京都支部、立川警察署、立川消防署、立川市の展示ブースが展開されました。陸上自衛隊の豚汁や日本赤十字社によるAED体験、立川市による起震車体験が好評でした。
 また、警察の特殊車両や白バイ、パトカー、消防の救急車等が人気を集めていました。

③第三会場:(たましん駐車場)
 「体験」がテーマで、消防による煙ハウス体験、水消火器体験が、世代や性別を超えて好評でした。

③第三会場:(アレアレア・スタジオ)
 「体験」がテーマで、日本赤十字社による減災救護セミナーが、世代や性別を超えて好評でした。



配布パンフレット